

# 日本応用経済学会ニューズレター

Japan Association for Applied Economics Newsletter

第15号 2024年2月

日本応用経済学会事務局：〒819-0395 福岡市西区元岡 九州大学経済学部

TEL/FAX：080(5321)7299

E-mail: [jaae@jaae.org](mailto:jaae@jaae.org)

<http://www.jaae.org/>

---

## 目次

会長挨拶

理事会報告

学会誌編集委員会

学会賞選考委員会

国際交流委員会

学会誌への投稿について

2024年度春季大会のご案内

紹介！研究室

訃報

編集後記

2022年度決算資料

2023年度予算資料

## I. 会長挨拶

日本応用経済学会  
会長 焼田 党

皆様には日頃より日本応用経済学会の発展にご尽力頂きありがとうございます。

新型コロナウイルスが5類に移行し、さまざまな事柄がコロナ禍以前の状況に戻りつつあるように思われます。しかし、世界を見渡すと、多くの地域で紛争や戦争が続いています。また、自然災害も多発しています。自然災害の場合には少し異なるかもしれませんが、戦争や紛争についてはかなりの程度事前の兆候があり、予防的にも分析できるように考えられます。そして多くの場合そこには経済的な要因が大きくかかわっているように思います。これらの問題に対して、応用経済学という様々な視点を同時に用いる複合的な分析手法がその存在意義を増すときと考えます。この意味で、本学会の果たす役割は非常に大きいといえるのではないのでしょうか。

コロナ禍で学会活動の縮小がありましたが、その間もオンライン開催や、研究書の発行など活動を継続していただきました。掲載論文数は少なくなってきたはいましたが『応用経済学研究』も継続して発行していただきました。そして、やっと再び対面で学会開催ができるようになり、対面での学術交流もできるようになりました。他方で、社会的変化によるものかもしれませんが、学会における研究報告等の状況がコロナ禍前の状況以上になっているとは言い難いように感じています。会員数は減ってはいないと承知していますが、たとえば、講演等への会員の皆様のご参加は以前よりも減っているようにさえ感じています。

我々を取り巻く状況の変化はありますが、学会のさらなる繁栄がもたらされるように、皆様

には一層のご尽力をお願いしたいと思います。  
最後に、この4年間、皆様に力強く支えて頂きました。誠にありがとうございました。

## II. 理事会報告

### II-1. 2022年度第2回理事会報告

日時：10月29日(土) 11時00分～11時40分  
会場：同志社大学(今出川キャンパス) 至誠館  
3階会議室

出席者：焼田、長岡、木原、成生、福重、永星、藤田、野崎、細江、多和田、坂上、小川、大住、内藤、大森、渡邊、大内田、柳瀬、瀧本、伊ヶ崎、土居、池下、松浦、以上23名

司会の永星常務理事から開会の挨拶、秋季大会実行委員長の内藤理事より挨拶後、議事に移った。

### 議題

#### 1. 新入会員・退会員承認

事務局から資料1に基づき説明が、行われ、新入会員7名、1名のシニア会員への変更、3名の退会が承認された。

#### 2. 編集委員長等の改選について

新委員長として大住康之氏(兵庫県立大学)が推薦され、承認された。副委員長等の人選については新委員長に一任することで了承された。

#### 3. 編集委員会報告

福重委員長より資料2に基づき編集進捗状況について報告が行われた。また。投稿数が増えるよう協力の依頼があった。

#### 4. 国際交流の件（実績報告）

大住委員長より資料3に基づき、報告が行われた。韓国経済通商学会の開催が延期されたため、参加者の推薦依頼があった。

森保、大住、堀、内藤、大森、大内田、柳瀬、瀧本、伊ヶ崎、池下、松浦、森田（監事）、以上、24名

#### 5. 2022年度学会賞選考スケジュール（案）

長岡委員長より学会賞の選考スケジュールについて資料4に基づき、説明が行われた。

坂上理事より開会の挨拶、続いて、開催校実行委員長の永星常務理事より挨拶があり、その後、議事に入った。

#### 6. 学会体制について

焼田会長より、現在よりも事務局のシステムについて良い方法がないかということについて、次年度の春季大会、秋季大会時に諮る予定で進めたいとの説明が行われた。

### 議事

#### 1. 新入会員・退会員承認

事務局より資料1に基づき、新入会員8名、5名のシニア会員への変更について説明があり、承認された。

#### 7. 2023年度春季大会について

開催校の渡邊理事より挨拶が行われた。

#### 2. 2022年度会計報告

野崎常務理事（財務担当）より2022年度会計報告が資料2に基づき行われた。続いて、監事の森田氏より、適正に処理されていると会計監査報告が行われ、承認された。

#### 8. その他

なし

#### 3. 2023年度予算（案）

野崎常務理事（財務担当）より2023年度予算案について資料3に基づいて説明され、承認された。

### 報告

1. 学会誌のWeb化の作業開始について  
出版社との申し合わせで発刊から2年経過したものからJ-stageに掲載することで同意を得られたことが説明され、11月から作業に開始予定であることが説明された。

#### 4. 編集委員会報告

大住編集委員長から資料4に基づいて、編集の進捗状況について説明が行われた。

#### 2. その他

なし。

#### 5. 学会賞選考委員会報告

学会賞選考委員長の長岡副会長から資料5に基づいて、選考結果について報告が行われ、承認された。

## II-2. 2023年度第1回理事会報告

日時：6月10日（土） 11時00分～12時00分

会場：福岡大学2号館地下1階 会議室1

出席者：焼田、長岡、木原、福重、永星、藤田、野崎、大川、細江、瀧井、坂上、三浦、

#### 6. 国際交流委員会報告

国際交流委員長の大住理事より資料6に基づいて報告が行われ、今年の4月の韓国応用経済学

会は新型コロナウイルスの影響で開催されなかったことが報告された。

#### 7. 学会誌 WEB 化について

Web 化作業について事務局より進捗について、手続きの関係もあり、7 月末公開を目途に作業おこなっているが、終わり次第、公開できる旨の説明があった。現在、最新の 2 巻は公開できないため、交渉を続けることとした。

#### 8. 今年度秋季大会について

開催校の慶應義塾大学の藤田常務理事より挨拶が行われた。

#### 9. その他

なし

### 報告

#### 1. 西日本支部大会について

池下理事（西日本部会担当幹事）より、西日本部会大会の実施結果について別配布資料に基づき報告があった。

#### 2. その他

なし。

### III. 学会誌『応用経済学研究』編集委員会報告

編集委員会委員長

大住康之（兵庫県立大学）

2022 年 12 月より福重前委員長から引き継ぎ、委員長を務めております。

前編集委員会から引継ぎました論文 6 本（採択済みを除く）のうち、再投稿依頼中が 5 本、1 本が棄却です。2022 年 12 月以降の投稿論文は、2023 年 10 月 30 日時点で 9 本あり、現在、2 本が採択となりましたので、前巻刊行以後に

採択された論文にて、16 巻の発刊の準備を進めています。また、皆様からの論文の投稿を、期待しております。

### IV. 2022年度学会賞について

学会賞選考委員長

長岡貞男（一橋大学名誉教授）

2022 年度学会賞の選考については、14 名の審査委員の先生にご協力を頂き、著作賞については、松島法明先生(委員長)、大野裕之先生及び藤田康範先生に審査を頂き、奨励賞については、12 名の審査委員の先生にご協力を頂き、以下の結果となりました。

#### 学会賞

大川 隆夫氏(立命館大学 経済学部 教授)

(受賞理由)

大川隆夫氏は、寡占市場における参入の経済効果や貿易政策の効果など、産業組織や国際貿易の分野で、独自性の高い理論研究を継続的に進めてこられた。その成果は Canadian Journal of Economics, The Manchester School, International Journal of industrial Organization, Review of international economics などの査読付き国際学術誌に多数掲載され、国際的にも高く評価されている。さらに、本学会の前身である西日本理論経済学会からの会員であり、学会理事、また 2013 年春季大会では大会委員長を務めるなど学会運営に大きく貢献してこられた。

#### 著作賞

「データとモデルの実践ミクロ経済学：ジェンダー・プラットフォーム・自民党」 安達貴教氏（京都大学経営管理大学院・大学院経済学研究科 准教授）

(受賞理由)

本書は著者の過去の優れた研究成果を踏まえて、そのエッセンスと応用を、広く一般の方にも理解可能な形で執筆された、研究書でありかつ啓蒙書になっている。ジェンダー、プラットフォーム、自民党という、多様なテーマの分析へのミクロ経済学の応用可能性が伝わる内容となっている。応用経済学の発展に資する重要な著書である。

### 奨励賞

“Preference for Traditional Gender Norms and Spouses' Subjective Well-being”

Wen Li 氏 (Institute of Mathematics for Industry, Kyushu University)

Studies in applied Economics 第 16 巻掲載予定

(受賞理由)

家族の経済学における興味深い実証研究であり、今後の発展が期待される。

## V. 国際交流委員会報告

国際交流委員会委員長

大住康之 (兵庫県立大学)

### 1. 韓国応用経済学会 (KAAE) の秋季大会への招聘

2022 年 10 月 29 日-30 日の秋季大会に 3 名の先生が報告者としてオンラインで参加されました。

### 2. 韓国経済通商学会 (KEBA) への参加

Korean Economic and Business Association (KEBA) 2022 Fall International Conference が 2022 年 11 月 18 日 (金)、19 日 (土) に啓明大学校にて開催されました。本会からは、オンラインにて 3 名、対面にて 1 名の合計 4 名の方が

参加し、報告いたしました。

### 3. 韓国応用経済学会 (KAAE) への参加について

例年、4 月に開催されていますが、今年度は新型コロナウイルスの影響で、国際大会は開催しない旨の連絡が事務局にありました。その際、今後、開催する場合は、改めて連絡すると説明がありましたが、開催されず、派遣は行われませんでした。

### 4. 韓国経済通商学会 (KEBA) の春季大会の招聘について

2023 年度春季大会に 7 名の先生が参加され、6 名の方が報告し、1 名の方は座長を務めて頂きました。

## VI. 学会誌『Studies in Applied Economics 応用経済学研究』への投稿について

編集委員会報告にもありましたように、会員の皆様からの学会誌の投稿をお待ちしております。投稿は随時可能です。投稿規程等については学会 Web サイトにてご確認ください。

## VII. 2024 年度春季大会のご案内

2024 年度春季大会は、2024 年 6 月 8 日 (土)、9 日 (日) に九州大学大橋キャンパスにて開催されます。報告申込締切は 2024 年 3 月 20 日 (水)、論文提出締切は 5 月 13 日 (月) です。

今回より Web 申込に変更となりました。会員の皆様には申込サイトの情報をメールにて案内しております。皆様からの報告をお待ちしております。

## VIII. 紹介！研究室

明治学院大学白金キャンパスの室研究室を紹介させていただきます。1863 年創設のへボン塾から

始まり、白金キャンパスには歴史的建造物が現存しています。東京都港区白金台にあり、品川駅や目黒駅からバスで12分と立地に恵まれております。キリスト教の黄金律(Golden rule)は、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」(新約聖書マタイによる福音書7章12節)という原則であり、これは明治学院大学の教育理念：Do for Othersであります。経済学における資本蓄積の黄金律とは、消費を最大化させる資本の水準であり、将来世代に対する思いやりと持続可能な経済成長を強調しています。もし資本が黄金律水準よりも過少蓄積になっている状況であるならば、資本を蓄積することによって消費を高めることができます。しかし資本を蓄積するには貯蓄が必要であり、誰かが我慢を強いられます。これはもはやパレート改善できない状況であり、資源が効率的に配分されていること(パレート効率的)になります。皆が少しずつでも施し(Do for Others)を行えばパレート効率性を保ったまま資本が蓄積され、より多くの消費が享受でき社会厚生を高めることができ、それと同時に所得不平等も解消に向かいます。私はマクロ的視点から経済成長と所得分配について研究しており、ゼミでは関連書籍を輪読してきました。精神的にも経済学的にもどうしたら黄金律を達成できるかについて追求していきたいと思っております。

明治学院大学経済学部  
室 和伸 教授

## IX. 訃報

中村 保 先生(神戸大学)が令和6年2月15日に永眠されました。

生前は、設立当初より理事として学会の発展に寄与され、特に国際交流委員委員長として韓国応用経済学会や韓国通商経済学会との関係構築に、また学会誌編集委員会副委員長として学

会誌編集にもご尽力頂きました。

多大なご貢献に感謝申し上げます、とともにここに深く哀悼の意を表し、先生の安らかな旅立ちをお祈り申し上げます。

## X. 編集後記

2023年度はコロナウイルス感染拡大に関して、5類移行となり、コロナ禍前と同じような行動が原則可能となった。報告については既に去年度より対面での実施となっていたが、懇親会については久しぶりの開催となり、学术交流が報告セッションだけでなく、懇親会でも行われることとなった。対面には対面の良さがある。オンラインだとつい同時に発言をしてしまったりと話すタイミングが難しいこともあった。また、ちょっとした質問はしにくい状況もあった。セッションが終わればその場では質問できない状況であった。しかし、対面であれば、セッションの開催時間が終わったとしても、ちょっとした質問があったとしても、時間外や懇親会などで質問をすることができる。私は対面での開催の重要性を改めて認識した。

一方でオンラインにはオンラインの良さがあるかもしれない。育児と仕事の両立の関係や諸事情で外出が困難で自宅で仕事をせざるを得ない事情があれば、オンラインでの報告は有用であるとも考えられる。コロナ禍で学んだ事は多い。学んだことを礎として、今後の学会運営を工夫することでより刺激的な学会の開催ができるのではないかと考えている。

安岡 匡也(関西学院大学)

令和4年度 日本応用経済学会 会計報告  
(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(b)-(a)
繰越金	8,011,270	8,011,270	0
会費収入	3,950,000	4,012,000	62,000
学会誌収入	0	0	0
利子収入	1	3	2
春季大会補助金	0	160,000	160,000
開催補助費返還分	0	915,377	915,377
印税収入	0	119,521	119,521
(収入小計)	3,950,001	5,206,901	1,256,900
合計	11,961,271	13,218,171	1,256,900

現金・預金残高

	小計
令和4年度期首	
ゆうちょ事務センター	7,553,140
ゆうちょ口座	268,177
福岡銀行	74,008
現金	115,945
期首繰越額	8,011,270

	小計
令和4年度期末	
ゆうちょ事務センター	10,529,461
ゆうちょ口座	368,179
福岡銀行	351,365
現金	358,004
期末繰越	11,607,009

2. 支出の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(a)-(b)
通信費	150,000	132,302	17,698
消耗品費	50,000	23,887	26,113
事務補助費	500,000	167,730	332,270
学会開催補助費	800,000	960,000	-160,000
理事会開催補助費	120,000	68,028	51,972
各種委員会開催費	50,000	12,880	37,120
シホジウム等補助金	130,000	103,000	27,000
学会賞	90,000	50,600	39,400
国際交流費	200,000	0	200,000
払込手数料	75,000	63,391	11,609
学会誌購入	2,000,000	0	2,000,000
学会webサイト運営費	30,000	29,344	656
学会誌Web化費用	200,000	0	200,000
雑費	20,000	0	20,000
小計	4,415,000	1,611,162	2,803,838
繰越金	7,546,271	11,607,009	-4,060,738
合計	11,961,271	13,218,171	-1,256,900

上記の通り報告致します。

常務理事(財務担当)

野崎 竜太郎



会計担当幹事

池下 研一郎



監査の結果、上記相違ありません。

監 事

森田 充



**令和5年度 日本応用経済学会**  
(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額	備考
繰越金	11,607,009	
会費収入	3,950,000	(10,000円×380人)+(5,000円×30人)
利子収入	1	
学会誌収入	0	
(R5収入小計)	3,950,001	
合計	15,557,010	

2. 支出の部

項目	予算額	
通信費	150,000	
消耗品費	50,000	
事務補助費	500,000	事務補助員アルバイト代(2万円×10ヶ月)及び旅費(8万×2)400,000円とその他アルバイト代
学会開催補助費	800,000	400,000円×2回
理事会開催補助費	120,000	60,000円×2回
各種委員会開催費	50,000	
シホジウム等補助金	200,000	
学会賞	90,000	
国際交流費	300,000	4名2泊(秋季大会)、2人2泊宿泊費(秋季大会1回分)
払込手数料	75,000	
学会誌購入	3,800,000	2巻発行予定のため(1,900,000円×2)
学会webサイト運営費	30,000	
雑費	20,000	
学会誌Web化費用	200,000	
小計	6,385,000	
予備費	9,172,010	次期への繰越金予想
繰越金		
合計	15,557,010	